

「絆でつながる家庭教育支援セミナー」

青森市 日時:平成28年4月22日(金)～平成29年1月24日(金) 会場:青森県総合社会教育センター
平内町 日時:平成28年5月24日(火)～平成29年2月7日(火) 会場:平内町立山村開発センター

絆でつながる家庭教育支援セミナーは、全10回開催し、親子が気軽に立ち寄れる子育てサロンの実践を通して、日常的な家庭教育支援活動の在り方や即活用できるプログラムの作成方法について学ぶ地域密着型の家庭教育支援者育成事業です。今年度、それぞれの市町で開催した家庭教育支援講座の講義の様子を紹介します。

1 「地域によりそう家庭教育支援とは」(青森市:5/13(金)、平内町:5/24(火))

講師 大鰐町赤ちゃん子育てサークル わにっこクラブ 代表 阿保 香月 氏
親子で関われる場所を作ろうと思い、サークルを立ち上げました。私たちのサークルは、特にメニューを決めていません。「ママ達の居場所づくり」をモットーに「活動を継続すること」を大事にして進めています。

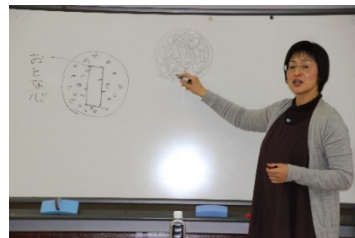


【子育てサロン運営の極意五か条】

- ① **活動を楽しむ**: おしゃべりする居場所・ゆったりできる居場所を提供。
- ② **継続する**: 1期10年計画。継続していれば、いろいろな方とつながりプラスになっていく。
- ③ **発信する**: イベントだけでなく居場所があることを伝え続ける。スマホの情報だけだと自分で好きなものしか見ないので、様々な情報をママ達に提供する。
- ④ **ネットワークを作る**: 講座やイベントを行うときは連携団体を増やすようにしている。
- ⑤ **ヒロインはママ**: ママ達の声を拾って離乳食講座等の講座を開いている。続けていると勉強したいママ達が増え、後に「パパの手料理講座」の実施につながった。

2 「親子に寄り添ったカウンセリングの手法」(平内町:6/14(火))

講師 青森県総合社会教育センター家庭教育支援員 松林 恵公子 氏
カウンセリングの8割～9割は「相手の話を聞く」ということです。それぞれの相談者の環境や悩みが違うため、その人のために役に立ちたいと思っても、それに応えることはできません。自分が何とかしてあげるよりも、話をじっくり聞くことが大事です。



- ・ **まず母親を支えよう**: 子どもが泣く場面では子どもに目が行くが、その時は、母親を支えることが大事。
- ・ **本来の自分を取り戻す**: 元々、母親は子育ての力をもっている。しかし、現代の「泣かない子育て」に見られるように、周りの批判などで自信をなくしている。だから、今だけを見て「あなたダメね」という見方をせず、「あなたには、子育ての力があるんだ」という眼差しで見ましょう。
- ・ **現実ベスト**: 今できること、今できていることをほめてあげてみましょう。

3 「未来につながる家庭教育支援とは」(青森市:8/19(金)、平内町:2/7(火))

講師 特定非営利活動法人ココネットあおもり 代表 沼田 久美 氏
現代は、少子化と育児困難な時代です。ママ達は、ライフスタイルがそれぞれの家で違うので自分の子育てに自信が持てません。マニュアルで育ったがゆえに人と違うのを怖がります。すぐくまじめで情報を取り入れますが、自分の子どもに当てはまるかどうかかわからず、どれが正しいかわかりません。
だから、今の「家庭教育」は、「社会で自立して生きていくために家庭の



中で学ぶ。「家庭の中で学ぶルール」だけでなく、核家族で子育ての傳承ができない中、「親となるための学び」が必要です。私たちができる家庭教育支援は、「親となるための学びを支援すること」です。

【支援者として必要な事はなにか】

- ・ **寄り添う**：今の子育てについて知っておかなければならないことはあるが、逆に「知らないこと」が武器になる。知らなかったらママと一緒に調べようとすればいい。寄り添って傾聴・協働、一緒にやってみようという姿勢を持つ。自分の知識を教えることは、小さな親切大きなお世話。
- ・ **今のパパ達**は、自分の父親が育児するのを見て育っていない。モデルがないため精神的な応援が必要。
- ・ **ママの元気が子どもの元気** → 「何か困ったことある？」と聞いてみる。
- ・ **学ぶ必要性**：支援者として学ぶことは変わること。そして、支援者として自分を認める。

4 「お母さん達をどうやってエンパワーメントしていくか」(青森市：9/16(金)、平内町：12/13(火))

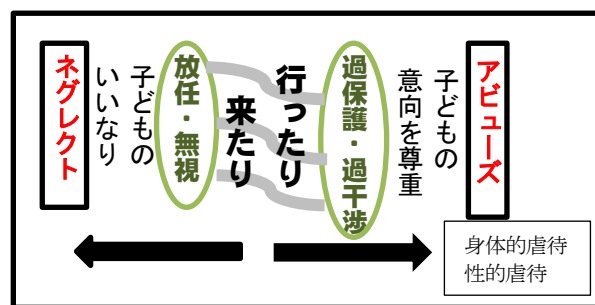
講師 児童心理治療施設「青森おおぞら学園」園長 鳴海 明敏 氏

子育ての時代的背景を見ていくと、自分の育てられた時代と今の子育てには違いがあります。昔は、子どもが遊んでいると地域が見てくれましたが、今は遊ぶ場所もないので、地域の人にもわからず遊ぶこともできません。異年齢で遊ぶこともなくなりました。また、電化製品が便利になったので、家の手伝いもなくなりました。最近の子育ての特徴として、子どものいいなりにになりがちな子育てがあります。

「子どもの意向を尊重」しているつもりが、いつの間にか「子どもの言いなりになる」場合もあります。子育ては、子どものいいなりにになりすぎると、やがて、ネグレクトになる危険性があり、逆に子どもの意向を尊重しすぎると、過保護・過干渉が行き過ぎた結果、アビュース

(虐待)になる危険性があります。そうならないように子育ては、「放任・無視」と「過保護・過干渉」の間を行ったり来たりしながら行われているのです。

では、「支援をする」とは、どういうことをするのか。話をするとき、いっしょのカプセルに入っているように、寄り添うことです。「あなたはあなた」、「私は私」だとながらっていきません。そして、代わりにしてあげるのではなく、自分でできるようにしてあげること(エンパワーメント)が大切です。



5 「心の通うコミュニケーション ～子どもを介して、私たちのコミュニケーションを考えよう～」(青森市：10/21(金)、平内町：9/20(火))

講師 青森県立保健大学 准教授 川内 規会 氏

コミュニケーションの基本は「認める」ということです。ほめる時は、相手を理解するために、観察・傾聴・確認・共感が必要です。伝えることの目的には、「気楽に聞いてもらえたら嬉しいな(挨拶や雑談)」と「真剣に聞いてもらわないと困る(主張、不満、プレゼン等)」があります。人に理解してもらうには、責任を伴いますが、子どもにはうまく伝わらない場面もあります。



【伝えること」と「伝わること」は違う】

- ・ 具体的にわかるように伝えなくては、伝わらない。
- ・ 非言語で伝わるものとはにかく多い。「聞き流し」、「反応なし」、「怒っている雰囲気」は要注意
- ・ わかるはずと思っけていても意外にわかっていない「当たり前」が当たり前ではない。

【コミュニケーションの基本姿勢】

- ・「何でわかってくれないの」ではなく「わからない」を前提に
- ・伝えることは自分から行うことであり、相手に自然にわかってもらおうと期待してはいけない。
- ・表現してあげなければ伝わらない。

6 「子どもの気になる行動と関わり方 ～発達障害への理解～」

(青森市：11/18(金)、平内町：11/16(水))

講師 青森中央短期大学 幼児保育学科 専任講師 松浦 淳 氏

発達障害の子どもとの関わりで要になるのは「信頼関係」です。本当は何につまずいているのかがわかって初めて問題の分析や理解ができ、具体的支援につながります。対症療法になると、対処の繰り返しになり成長につながりません。支援の根っこはあくまで信頼関係です。

係わりの中で、情報を共有できず、仲間関係を構築、発展、維持しづらく、「わかってほしい」という内心が伝わらず、コミュニケーションが困難になることがあります。そのため、**本人の本当の気持ちを理解することが重要です**。いたずら等の現象にのみ反応すると、嫌な印象だけが残る結果になります。



【子ども達の多様性に応じた係わり：5つの視点】

- A：視覚的情報を有効に（身振り、絵カード、写真、文字の活用）
- B：見通しを持たせる（これから何をして、どうしたら終わりになって、次に何をするのか）
- C：「ダメというだけ」ではダメ（いくつかの選択肢を示す。こだわりは、なくすより生かす）
- D：メリハリをつけて、淡々と（良いものは良い、悪いものは悪い。情緒的になりすぎない。淡々と）
- E：メッセージを読み取ろう（ずれを前提とし、寄り添う術を探す、試す、共有する。本人からの視線、表情、動き等から読み取る。周りにいる大人から情報を得る。）

7 「相談を深め次へのつながりを作るためには」（青森市：1/20(金)）

講師 上級教育カウンセラー 佐々木 順子 氏

「エゴグラム」を通して、客観的に自分の性格を知ることができます。自分の性格を知らないと、相手に対応できません。

【三種類の援助（寅さん式）】人間関係のツボ

- ・ワンネス：相手の身になり共感しようとする。
- ・ウイネス：相手の世話をする。身内意識。ほめる。相手の役に立つことをする。
- ・アイネス：自分について語る。愛情をこめて言うべきことは言う。



カウンセリングの技法は、①受容・傾聴、②繰り返し、③明確化、④支持、⑤質問の5技法があります。相手の話に関心を持ち、意識を集中して、自分の主観や価値観で判断せずに相手の身になって理解しようとする共感的な傾聴が大切です。楽な姿勢、上体は少し前にし、顔を向けて聴きます。その時に、言葉だけではなく、顔の表情や声の質など非言語によるコミュニケーションの部分が大きくなります。相手を受け入れる雰囲気の中で、**本人の持っている力を引き出していくのがカウンセリングとなります**。

【カウンセリングに大切なこと】

- ① 「なおそうとするな、分かろうとせよ」
- ② 「ことばじりをつかまえるな、感情をつかめ」
- ③ 「行動だけを見るな、ビリーフをつかめ」（行動パターン・意味・原因に気づく）